

## 第9回

# 震災研究連絡会

弘前大学のネットワークで震災研究を広げよう。



### 【連絡先】

弘前大学大学院地域社会研究科

檜垣貢研究室（教員室2）

Tel 0172-39-3938（内線 3938）

Mail himaki@cc.hirosaki-u.ac.jp

日時 2012年4月4日（水） 18:00～

場所 コラボ弘大1F コミュニティ・スペース

司会 檜垣貢（ひまき・みつぐ）弘前大学 大学院地域社会研究科 教授

18:00～19:00

田中重好（たなか・しげよし）名古屋大学文学研究科 教授

「東日本大震災：社会学から何を問うか」

19:00～20:00 意見・情報交換

※震災対応や震災研究に興味のある方はどなたでも参加・聴講できます。

※当日2つの報告の後に、震災に関する情報・意見交換を行います。情報をお持ちの方はこの機会にご紹介ください。

※連絡会終了後、有志の懇親会を予定しています。

第8回震災研究連絡会は、2012年3月6日に行われた。

### 【報告者】

檜垣大助（ひがき・だいすけ）弘前大学農学生命科学部 教授

「東日本大震災における斜面災害の発生実態」

白石睦弥（しらいし・むつみ）弘前大学特別研究員

「近世・近代における震災対応と復興 ～東北の事例を中心に～」

### 【概要】

「震災発生後の一連の地震で、地滑りなどの斜面崩壊が宮城県以南で多数発生した」「震度5強以上を観測した地域で発生割合が高くなる」。地形学が専門の檜垣大助・農学生命科学部教授が、自らを含む約10人の研究者グループの分析を中間報告した。

また、白石睦弥・弘大特別研究員（災害史）は「かつて災害は、避けられない『災い』と捉えられ、例えば本県など積雪地でも『雪害』という言葉自体がなかった。しかし、特に戦後になって『災害とは社会に害を及ぼす自然現象』という考え方が普及し、防災という視点も生まれた」と指摘した。さらに、1933年の「昭和三陸津波」の際、新聞社が募金を募って八戸市などに立てた「津波碑」を例に、災害の教訓を後世に伝える努力の必要性を強調した。（K）

第10回連絡会は2012年5月、コラボ弘大1Fのコミュニティ・スペースにて開催予定。